

「第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」平成28年度の主な実績

施策の柱	主な実績	評価
在宅生活を支える体制構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域包括ケア推進協議会」、「多職種での勉強会」、「地域別多職種交流会」「地域ケア会議」など、多職種の「顔の見える関係づくり」に向けた取り組みを実施。 ・ ICTを活用した医療・介護情報連携システム「フェニックスネット」を推進。平成28年11月からは救急隊にもタブレットを配備。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な取組を実施したことにより、多職種のネットワークづくりが進展。 ○ 関係者の具体的な連携が進展。救急現場でも効果が出始めている。(有効な活用事例6件)
認知症施策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の人や家族等が気軽に相談やリフレッシュできる場として、「オレンジカフェ」を新たに3か所開設し、計7か所。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近で気軽に相談できる場として役立っている。29年度は新たに8か所開設し、市内全域に広げる予定。
持続可能な介護保険制度の推進と適正な運営	<p>【介護保険事業費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 給付費全体で計画値を1割ほど下回る実績となった。第7期の事業計画を見据え、介護給付費や利用量等の分析、検討を行っていく。前年度実績との比較では、地域密着型サービスが増加した一方で、居宅サービスは減少。 <p>【施設整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成28年度は次の施設を整備。 <ul style="list-style-type: none"> - 認知症高齢者グループホーム1か所18名(川東地区西) - 特定施設入居者生活介護4か所190名(川東地区西/川東地区東/川西地区南/栃尾) - 特別養護老人ホーム1か所80名(川東地区北) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認定者数、利用量ともに概ね横ばいであり、サービスを必要とされる方には供給できている。 ○ 施設系サービスの整備はほぼ計画どおり。定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護は、人材確保難などから計画残が生じた。

持続可能な
介護保険制度の推進と
適正な運営

- ・平成29年度は次の施設を整備（見込み）。
 - 定期巡回・随時対応型訪問介護看護1か所
（川西地区南）
 - 小規模多機能型居宅介護2か所36名
（川東地区東／川西地区南）
 - 地域密着型特別養護老人ホーム1か所19名
（川東地区南・山古志）
 - 特別養護老人ホーム2か所160名
（川東地区東／川東地区北）
 - 介護老人保健施設1か所100名
（川東地区北）

健康づくり
への支援の
強化・推進

- ・健康相談の参加人数が増加
 - H27：848人 ⇒ H28：904人こころの相談の参加人数が増加
 - H27：56人 ⇒ H28：59人- ・各種健診の受診者数が総じて増加。一方で、対象者数が大幅に増加しているため、受診率が低下した健診もある。

- 個別の相談対応により、健康に対する不安解消や生活習慣改善の動機づけになっている。
- 受診者増は評価できるが、啓発や受診環境整備を図るなど、受診率向上が課題。

地域で支え
合う体制の
構築

- ・11月1日に新しい社会福祉センター（愛称：トモシア）を開設し、ボランティアセンターを移転。専門職員を配置してきめ細かな相談対応を行ったほか、福祉分野に限らず多分野のボランティア情報の提供に努めるなど支援体制を強化した。
- ・9月17日・18日に「すこやか・ともしびまつり」を開催し、25周年記念イベントを実施。

- 地域福祉活動の拠点として、3月末までに延べ22,124人が利用。ボランティア団体からも利便性が向上したとの評価を得ている。
- 過去最高の17,000人が来場。福祉に対する理解・関心を醸成。